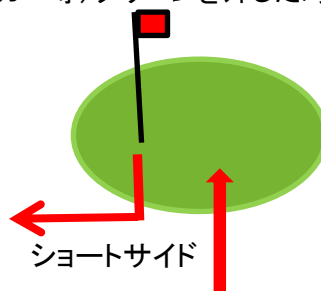


第69巻 グリーン・ショートサイドに外すな！

ピンの位置は、グリーン中央だけではなく、右や、左、奥や手前に切つてあることが多い。右図の場合、左側のピンに向かって、左サイドの（ラフや、バンカー等）グリーンを外した時を、ショートサイドに外したという。

スコアメイクには、ピンがサイドに振られていても、狙いは、中央が良く、両サイドに打って行くことは、危険が伴う事があると学習してきた。この巻では、なぜなのか、すべてが外してはいけないか等、もう少し掘り下げて検証していきたいと思う。

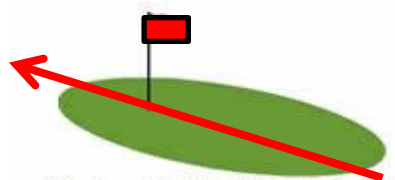


1、外したくない理由

普通、グリーンを外した場合ラフがあったり、バンカーが待ち受けている場合が多いものである。特に、ラフに外した時に、芝目が逆目だと、寄せるだけで精一杯で、カップインさせることは容易ではない。グリーンを狙い、ショットをするときに常に考えて欲しいのは、外した時のリスクである。次のショットで、3パットになる可能性は？ラフが深すぎて、アプローチはできるのか？順目になるか、逆目になるか？難しいパットの位置はどこかなど考えショットすべきである。

2、外しても良いショート・サイドは？

右図を参照していただきたい。(1)のピンポジションの場合、ショートサイドに外すと、下りのラインが残るばかりか、曲がりも計算できないくらい曲がるかもしれない。絶対に、ショートサイドに打ちたくないピン位置である。上手く寄せられる確率が低くなり、ピンをデッドに攻めるといふ選択肢は賢い選択肢とは言えないのではないかな？



(2)のピンポジションの場合、

グリーンに低い方にピンがある場合は、ショートサイドに外しても、比較的寄せやすいアプローチとなるため、外しても良いショートサイドといえるし、むしろ登りのアプローチとなるためカップインまで見込めるサイドといえよう。



3、攻めるホールと守るホールを意識せよ

どんなホールでもショートサイドに外すなと言うことではなく、ラフの状態やグリーンの傾斜などを考慮して、このホールはショートサイドに外せるかどうかと言うことを常に意識してプレーして欲しいということである。特に、傾斜の大きいグリーンのハイサイドにピンがある時は、周りの状況を良く観察して、最もリスクの少ない選択肢を中心にターゲットを決めるのが鉄則である。

例えば、左サイドにピンが切られていて、真っ直ぐ攻めるにはラフ越えになるシチュエーション。ラフが深い場合は、攻めない。ラフが短い場合は攻める。ピンが手前にある場合は攻めない。ピンが奥にある場合は攻める等を考慮する必要があるのではないかな？

そういうわけで、コースマネジメントという観点から、ホールごとに攻めるか否か考える必要がある。「ショートサイド」「ハイサイド」という状況を常に考えてプレーすると良い結果になるであろう。

いずれにしても、大きなミスを犯さないで淡々とプレーすることが良いスコアに直結するのである。それには、大きなリスクを捨て、攻めるホールは攻める。守るホールは、無理せず無難にという頭の切り替えが必要なのである。

